

調査の概要

- 調査実施日 令和元年6月19日（水）
- 調査の目的
 - ◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
 - ◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
 - ◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
 - ◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- 調査内容
 - ◆学力に関する調査（国語・社会・数学・理科・英語）
 - ◆学習状況に関する調査（生徒アンケート）
- 調査参加者 中学3年生（本市参加者 648人）

※教科や出題範囲が限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部です。

調査結果について

【教科別平均点・対府平均比経年比較】
 全ての教科において、府全体の平均点を下回りました。大阪府平均を1とした時の本市の平均点を比較すると、全ての教科で昨年度の結果を上回りました。

【教科別得点分布・無解答率】
 得点分布については、依然として府全体の傾向よりも学力の上位層が少ないことがどの教科でも顕著でした。20～44点の層の生徒の割合について、府と市の割合を比較したとき、特に府との差があった教科は社会で、府の割合：43.6%に対し、本市の割合：50.7%と上回っていました。

また、60～89点の層の生徒の割合について、府と市の割合を比較したとき、特に府との差があった教科は数学で、府の割合：38.5%に対し、本市の割合：30.6%と下回っていました。

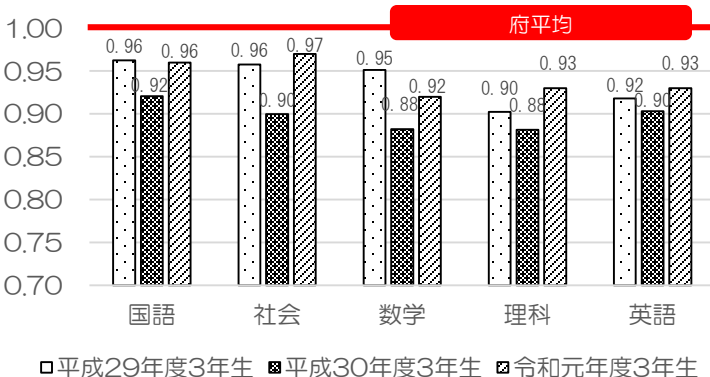
無解答率については、国語・理科では府・本市ともに昨年度よりも改善しておりますが、数学・社会・英語では、昨年度と比較したとき、府が1.6～2.9%増加しているのに対し、本市は、0.2～0.8%の増加にとどまっております。府全体の傾向に比べ、意欲的に取り組んでおります。

【観点別・設問別結果】
 全ての観点において正答率が府の平均よりも低い結果でした。設問別結果については、各教科とも一部府の平均を上回っている問題もありました。正答率の傾向は、府とほぼ同じです。

教科別平均点・対府平均比経年比較

	国語	社会	数学	理科	英語
本市平均点	54.9	44.7	49.3	44.5	43.9
大阪府平均点	57.1	46.2	53.5	47.7	47.0
対府平均比	0.96	0.97	0.92	0.93	0.93

対府平均比とは、大阪府平均を1としたときの本市平均の値です。



今後に向けて

【今後の取組み】
 各校では、本調査の結果及び分析結果を保護者等へお知らせするとともに、作成した学力向上プランに基づいた授業改善を中心とした学力向上の取組みを学校全体で行ってまいります。教育委員会では、学校派遣による指導主事の指導・助言、校内研修の実施、教育委員会主催の教員研修の充実を通して、各校の授業改善、学力向上の取組みを支援してまいります。

【学力の向上が見られた学校の取組み】

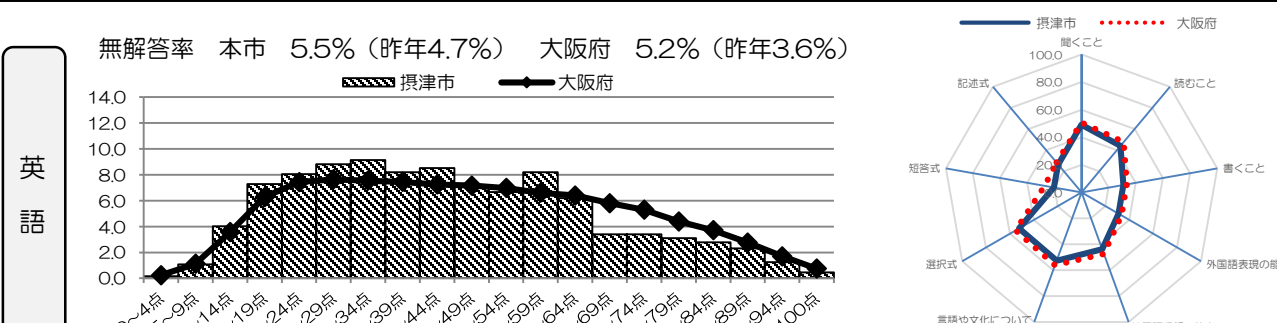
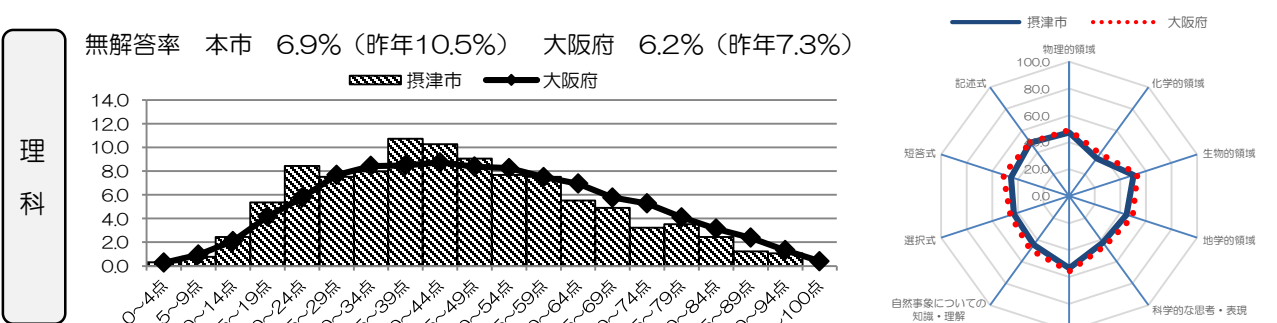
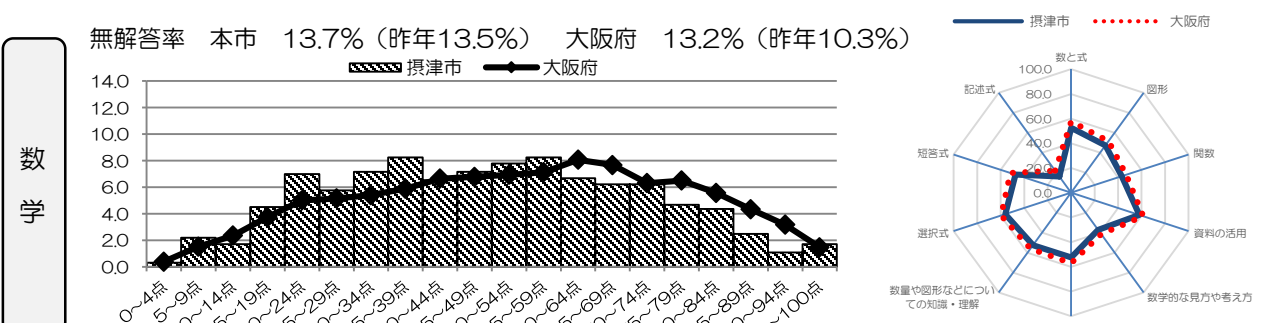
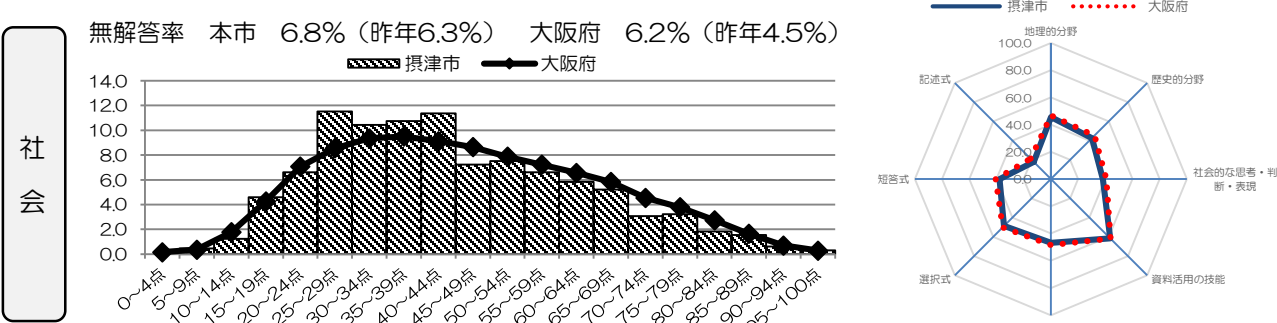
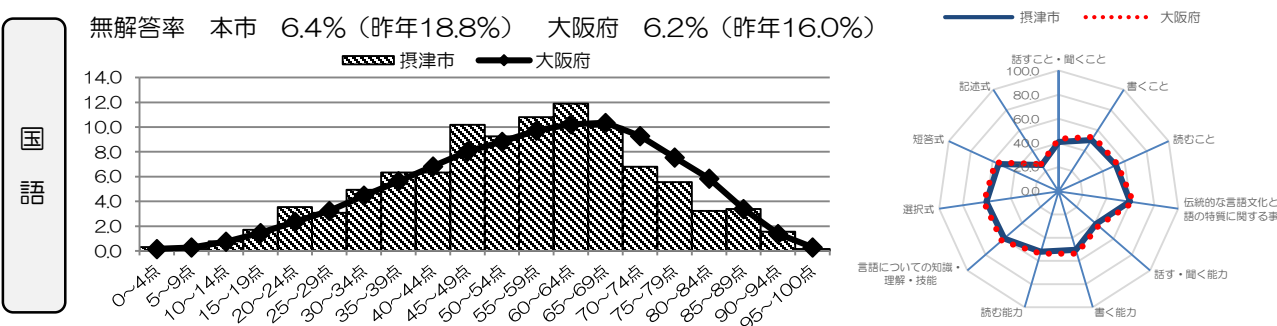
- ・協働学習に向かうための仕掛け、わかりやすい授業を展開するために、タブレットPCやプロジェクター、電子黒板などのICT機器を効果的に活用し、学習意欲の向上を意識した授業づくりを行う。
- ・中学校区内の学校間で研究授業及び公開授業を相互に参加し合い、児童・生徒につけたい力や学力向上の取組みを共有し、小中学校での9年間を見据えた学力向上の取組みを行う。
- ・学習状況だけでなく、学校生活全般に焦点を当て、当たり前のことを当たり前に取り組み生徒を認めることで、自己有用感を高める取組みを行う。
- ・学力向上担当者が中心に、学力向上の取組み通信などを活用し、教職員の日々の取組みを評価し、全体で共有することで教職員のモチベーションを高め、維持し学校全体の不断の授業改善を行う。

教育委員会では、このような学校の取組みを好事例として、市内の各学校にその意義・目的とあわせて普及させることで、市内全体の児童・生徒の学力向上に努めてまいります。

学力の定着においては、家庭での望ましい生活習慣と学習習慣を確立することが必要です。今後も、保護者や地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

教科別得点分布・無解答率

観点別・設問別結果



授業についての意識調査

生徒アンケートは、毎年同じ内容で各教科2問、授業についての質問項目があります。授業の内容がよくわかっているかどうか、教科の学習に主体的に取り組んでいるかどうか、尋ねています。

【授業の内容理解】

〇3年生での回答状況を府平均と比較すると、「当てはまる」と回答した割合は全ての教科で低くなっています。

〇1年時、2年時の回答状況と比較すると、社会で改善傾向が見られるのに対し、英語では学年が上がるにつれ、国語・数学・理科については3年生で授業の内容がわかると回答した生徒の割合が低くなっています。

【教科の学習への主体性】

〇府平均と比較すると、国語以外の教科において、肯定的な回答の割合が低くなっています。しかし、1年時、2年時の回答状況と比較すると、学年が上がるにつれ、国語・社会・理科で肯定的な回答の割合が高くなり、主体的に学習に取り組む生徒が増えています。

※肯定的回答の割合とは、選択肢のうちの「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した合計を表します。

【まとめ】

全体の傾向として、学習への主体性に関しては、学年が上がるにつれ上昇傾向にあり、授業改善の取組みとしての一定の成果が出ております。

その一方で、授業の内容理解に関しては、強い肯定の割合は上昇しているものの、肯定的回答の割合としては減少していることから、授業の内容理解に向けた授業改善に依然として課題が見られます。

今後も引き続き、課題解決に向けて、「授業での仕掛け」や「学習形態の工夫」など、各校の実態に応じて計画し、授業改善を進め、学習意欲の向上に努めます。

チャレンジテストについては、大阪府全体の調査結果とともに、「ワークブック」や「かだめしプリント」などの学習ツールが大阪府教育庁市町村教育室小中学校課のWebページに掲載されていますのでご活用ください。

かだめしプリント

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikarasyoukai/index.html>

ワークブック

<http://wwwc.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>

ことばのちから

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/kotobanotikara/kotoba-katuyou.html>

中学生チャレンジテスト（正答例やリスニングのスク립トもあります）

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/index.html>

前年度までの回答との比較と今年度大阪府の結果との比較

（1年生チャレンジテストは国語・数学・英語の3教科のみ、実施されます。）

